

どの子どもにも心の居場所のある学級づくりをめざして ～子どもの心を大切にしたい学級経営のあり方を探る～

鳥取県教育センター 教育相談課 長期研修生 民野 まゆみ

1 子どもにとって「学級集団」は・・・

学校生活の基礎的な生活集団であり、その在り方は子どもたちの成長に大きく作用する。

しかし、その学級で、学校不適應やいじめなどの問題行動が発生している。また、集団として機能しないという学級も出てきている。そんなさまざまな状況から、学級に居場所のない子どもたちが増えてきている。

居心地のいい学級とは、「自信や意欲を持って安心して活動できる」「なかまと共に課題に取り組むことが出来る」学級であり、そうなった時、その集団は「より良い学習集団」となり、どの子どもにとっても「心の居場所」となると考える。

活動する場所	とてもよくある	ややよくある	あまりよくない	ほとんどない
1. 読書	38.2	28.2	22.0	8.3
2. 座席上	31.6	21.9	25.9	16.2
3. 読んでいる動物のそば	26.4	19.6	30.4	15.4
4. 机周りや体育館	23.7	22.9	29.4	18.2
5. 保健室	15.9	16.6	25.3	29.4
6. 児童室などの専科の教室	14.0	25.0	22.7	22.6
7. 教室	13.6	29.9	39.9	13.0

※座席上については、座席上のある者の割合 (7.3)

1日の大半を過ごす教室なのに、落ち着かないと感じている子どもが約2割も・・・

2 そこで、研究仮説を、

学級担任が、人間関係づくりの視点で、学級集団や個々の子どもの実態を的確に把握し、開発的な集団カウンセリングを行うことで、子どもたちに生じる不適應を未然に防いだり、学級や学習を活性化できたりする。

として、研究を進めた。

*実態を的確に把握

日常観察や面接による把握に、「心理尺度」を取り入れて、個や集団の状況を多面的に的確に把握する。

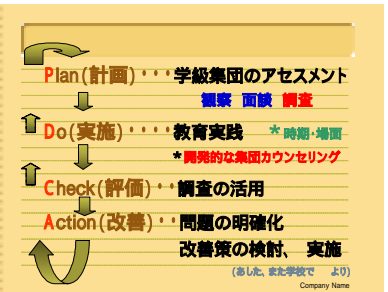
*開発的な集団カウンセリングを取り入れて

ルールの定着、ふれあいの交流

*担任の利点を活かして

カウンセリングマインドと リーダーシップ

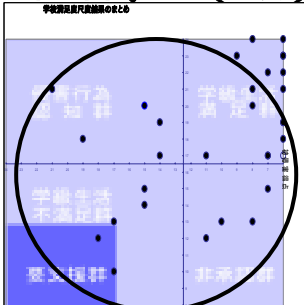
3 研究の内容と方法



5年生での実践

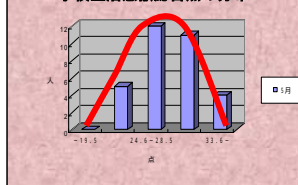
Plan

第1回Q-U(5月)



友だち関係 9.97/12
学習意欲 9.06/12
学級の雰囲気 9.66/12

学校生活意欲満足度の分布



学級集団の特徴

学級の約50%が満足群に在る。
拡散型である。

見立て(アセスメント)

子ども同士の結びつきの不足
ルールは守れるが、受身的
思いの伝え方が未熟

対応の方針

要支援群児童への個別対応
子ども同士、教師と子どものふれあい
*開発的な集団カウンセリングの実施
構成的グループエンカウンター(SGE)
グループワークトレーニング(GWT)

ルールの定着・リレーションづくり

Do

SGEショートエクササイズの実施

7月～9月
朝・帰りの会・学習の前後など
週1回、15分程度

GWTの実施

絵まわしドン
協力することの大切さ
わたしたちのお店屋さん
人の話をよく聞く
正確に話す

SGE「いいところ四面鏡」の実施

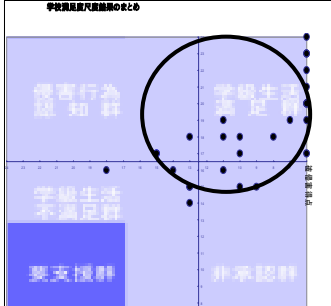
・宿泊学習後
・運動会後



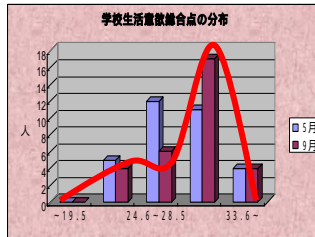
「アドジャン」
「背中合わせの会話」

Check

第2回 Q-U (9月)



友だち関係 10.1
学習意欲 9.32
学級の雰囲気 10.2



* K-13法での
集団討議を使って

学級集団の特徴

学級の65%が満足群にいる。
学級生活満足型になる。

見立て(アセスメント)

学級が集団としてまとまってきた。
学校生活に対する意欲が高まった。
子どもが自主的に動く姿が少ない。

対応の方針

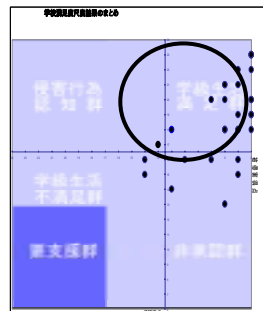
不満足群児童への個別対応
教師のかかわり方の見直し
SGE ショートエクササイズ継続
アサーション・グループワークの実施

Action

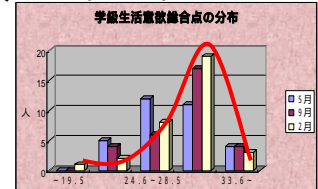
アサーション・グループワークの実施

第1時 「3つの話し方」
人とやりとりする時の3つの話し方の特徴
や違いを知る。
・「おどおどさん」「いばりやさん」
「さわやかさん」
第2時 「さわやかさんで言ってみよう」
場面を使って「さわやかさん」の言い方を
工夫することを通して、自分も相手も大切に
する言い方を意識して身につけようとする。

Check 第3回 Q-U (2月)



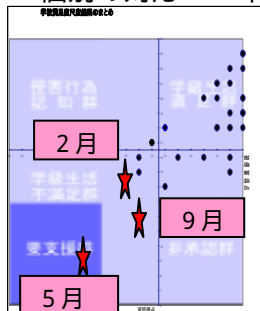
友だち関係 10.2
学習意欲 9.24
学級の雰囲気 10.1



72%が満足群
全体的に承認得点アップ
学級全体が高意欲

子どもたちにとって、
学級が居心地よくなって
きている。

個別の対応 印



原因
・意欲面の低下
対応
かかわりを多く持ち、
教師とのつながりを作る。
機会をとらえて活躍の場
を作る。
学校行事の係活動への後
押し

成果と課題

「Q-U」「K-13法」を活用した学級づくりの
有効性 的確な見立て 対応策 実施
教師のかかわり方の大切さ 個や集団
・知識や技術の適切な発揮
実態に応じた「開発的な集団カウンセリング」実施の
効果 ルールやリレーションづくり
評価の大切さ～定期的な見直しの効果
教師としてのスキルアップ
・知識や教育技術の習得
・柔軟性、応用力の習得

